

栗田工業株式会社

2018年3月期 第1四半期決算説明会

(証券コード: 6370)

1. 業績ハイライト

(億円)

	2016/6期	2017/6期		上期計画	
			前年同期比		前年同期比
受注高	563	680	+ 20.8%	1,120	- 0.4%
売上高	464	483	+ 4.1%	1,040	+ 0.2%
営業利益	37	35	- 6.1%	77	- 20.1%
経常利益	38	36	- 5.4%	79	- 18.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	26	25	- 6.1%	53	- 19.0%

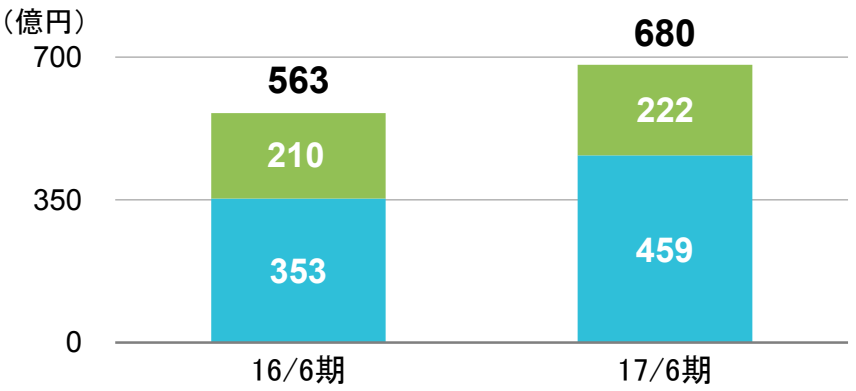
- 受注高は、主に水処理装置事業において国内外で大口の受注があり、大幅に増加。
- 売上高は、水処理薬品・水処理装置ともに増加。
- 営業利益は、販管費の増加により減益。

為替レート (単位:円)	2016/6期	2017/6期
USD	115.48	113.64
EUR	127.23	121.08
RMB	17.61	16.57

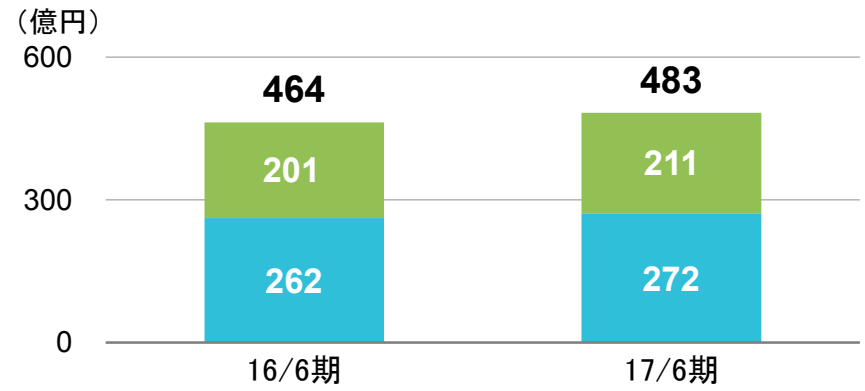
2. 受注高・売上高・営業利益・営業利益率



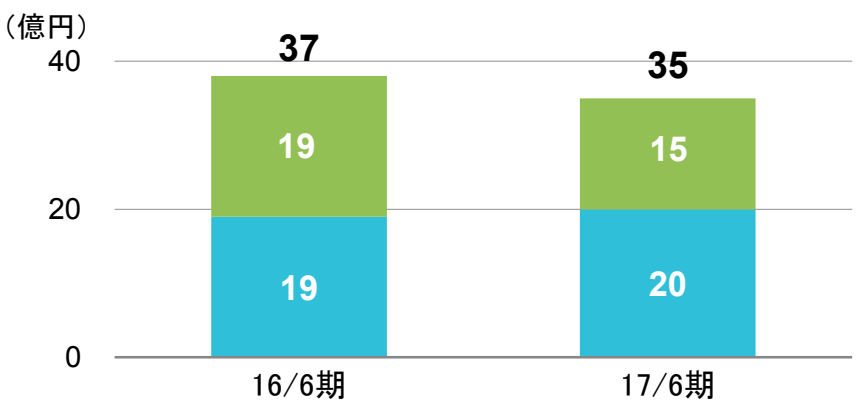
受注高



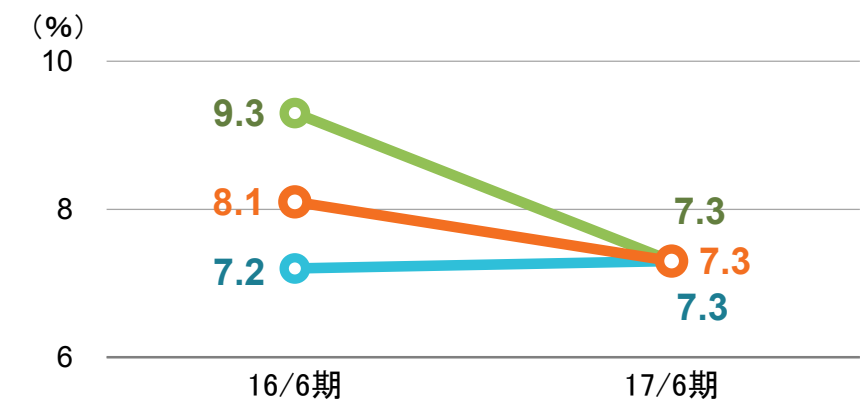
売上高



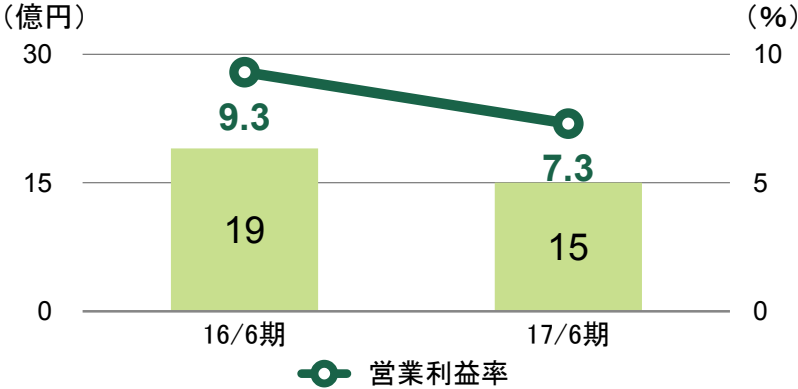
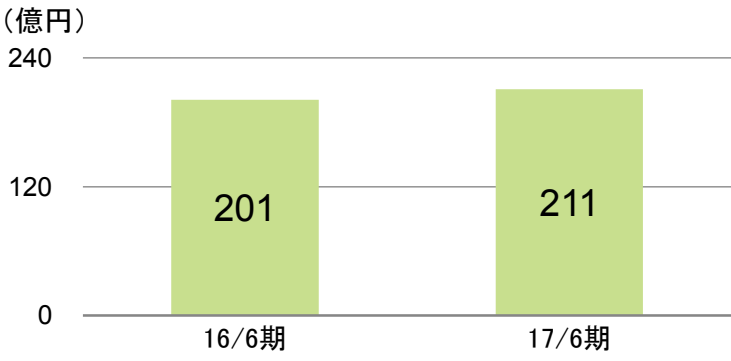
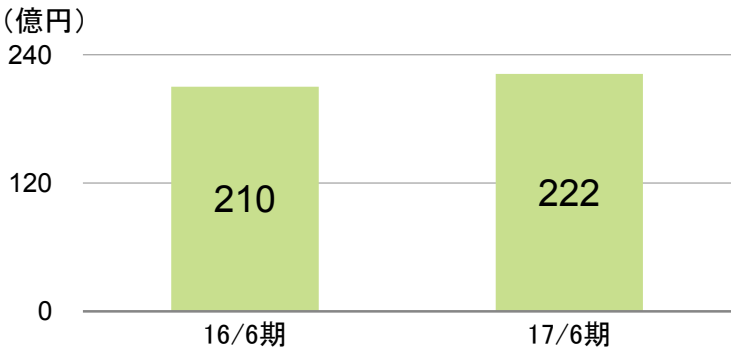
営業利益



営業利益率



3. 水処理薬品事業



受注高

- 国内はボイラ向け、冷却水向けといった主力商品はじめプロセス薬品他も増加。
- 海外はフレモント社の新規連結により増加するも、フレモント社を除くと減少。

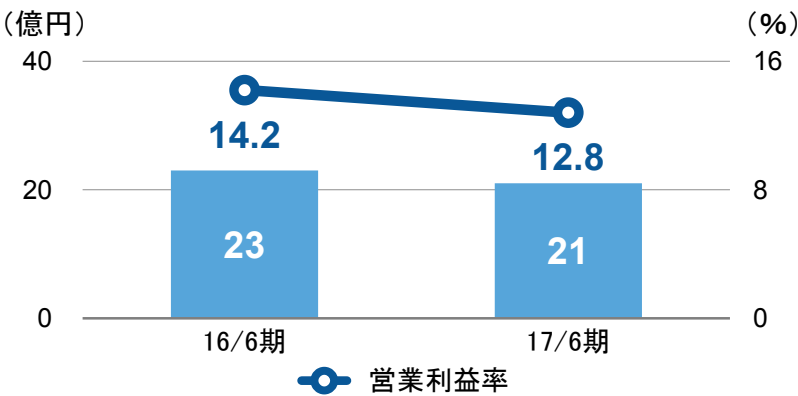
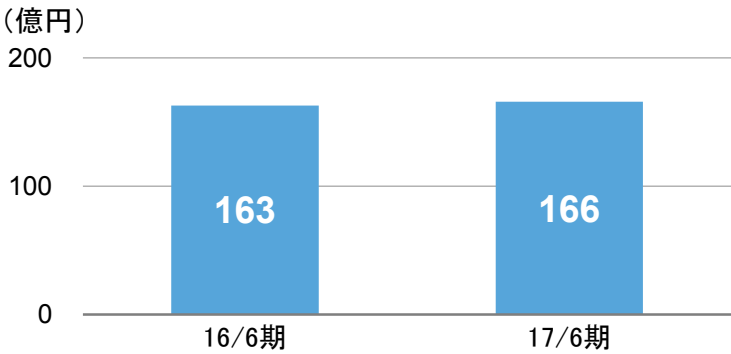
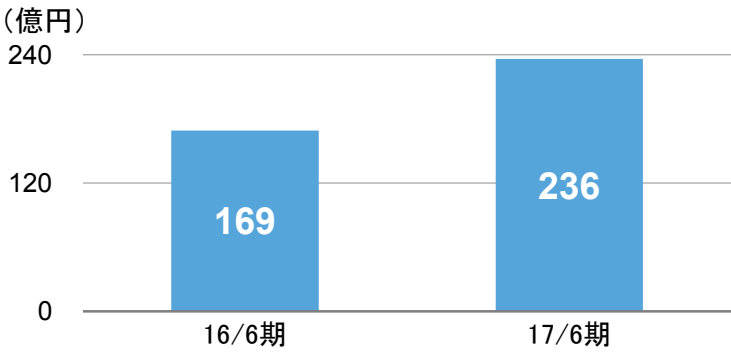
売上高

- 同上

営業利益

- 原価率は横ばいながら、販管費の増加やアジアにおける減収により減益。

4. 水処理装置事業（電子産業向け）



受注高

- 国内ハードは半導体向け大口受注により増加。
- 国内メンテナンスは増設や改造が増加。
- 海外ハードは韓国を中心に増加。
- 超純水供給事業は契約変更の影響により減少。

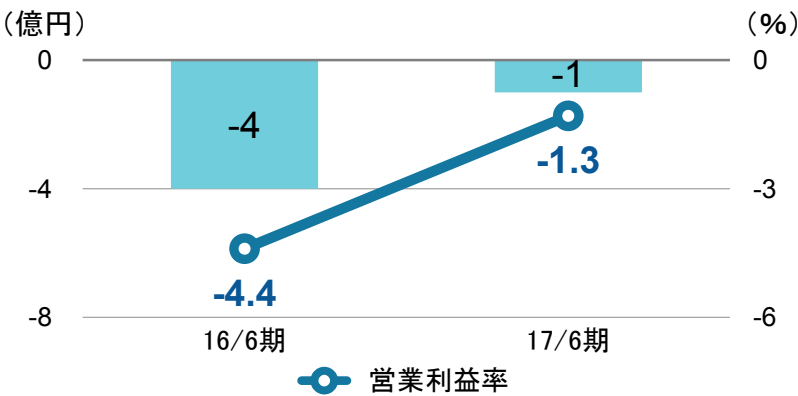
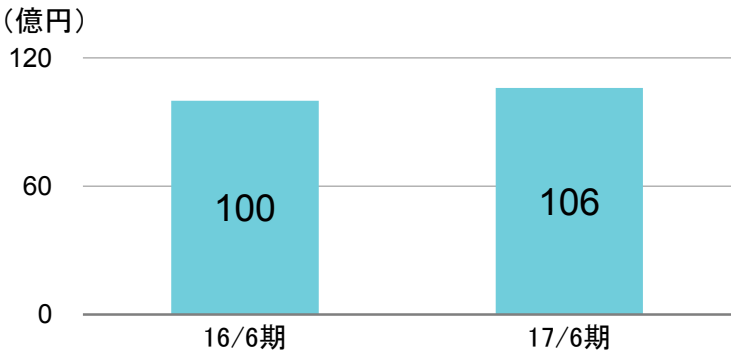
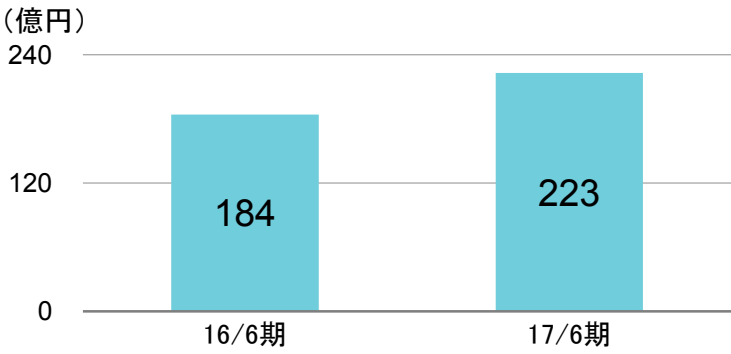
売上高

- 国内外でハードが工事進捗により増加。
- 国内メンテナンスは受注の増加に伴い増加。
- 超純水供給事業は契約変更の影響により減少。

営業利益

- 超純水供給事業の減収の影響。
- 国内メンテナンスの増収効果。
- 海外ハードの原価率改善。

5. 水処理装置事業（一般産業向け）



受注高

- 土壌浄化が大型案件受注により増加。
- 一般産業向けメンテナンスが設備老朽化に伴う需要や増設需要により増加。
- 電力向けハードは増加。

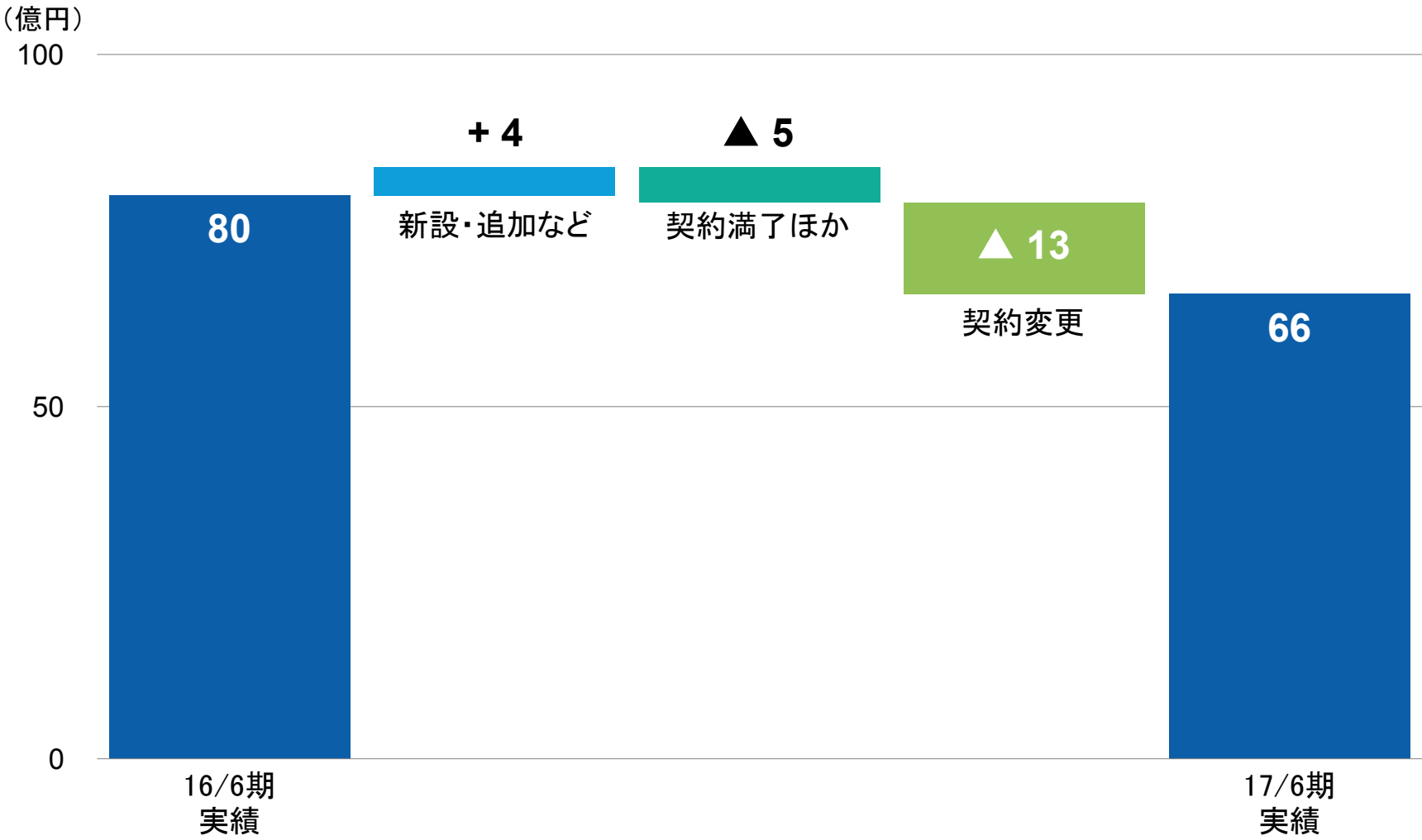
売上高

- 土壌浄化が工事進捗により増加。
- 一般産業向けメンテナンスは受注増加に伴い増収。

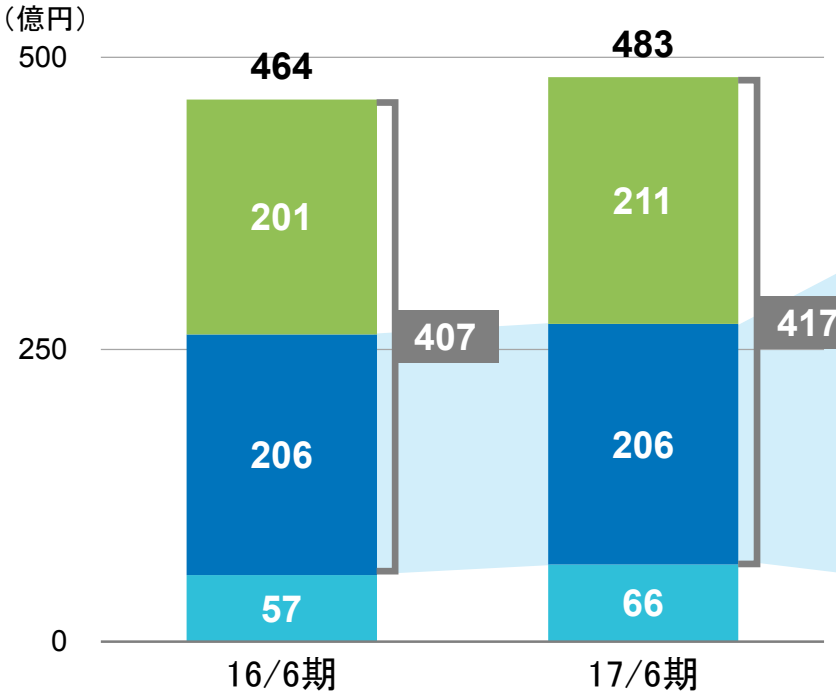
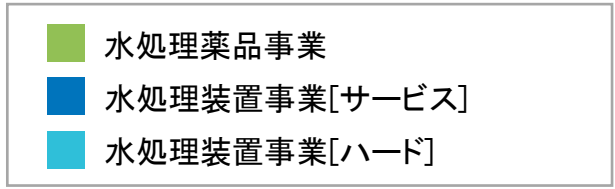
営業利益

- ハード、サービスともに原価率が改善。

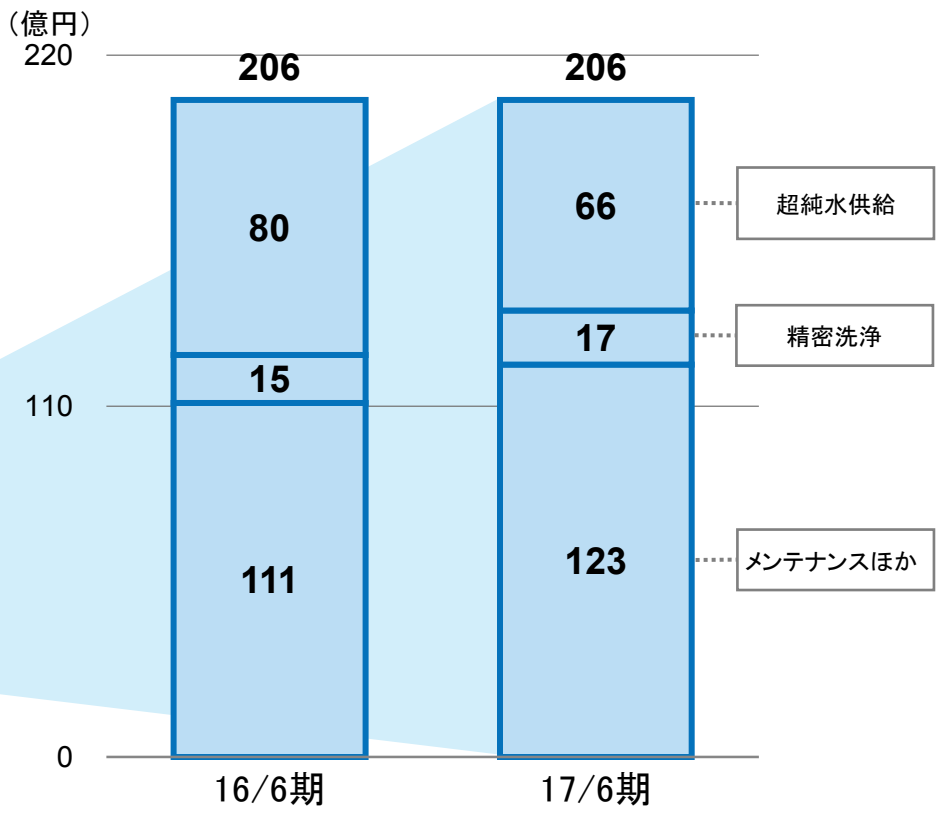
6. 超純水供給事業売上高



7. サービス事業売上高



装置事業中のサービス事業売上高内訳



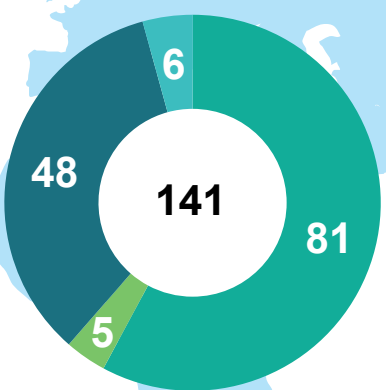
■ 精密洗浄は減少したがメンテナンスほかは堅調に増加。

8. 海外事業売上高

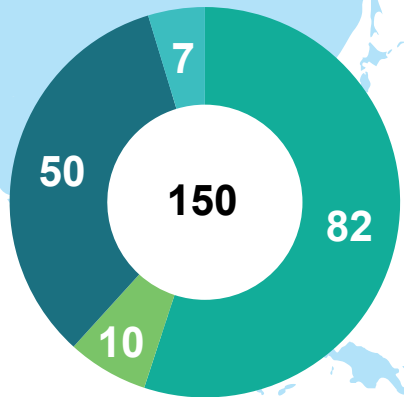
海外地域別売上高



(単位: 億円)



16/6期

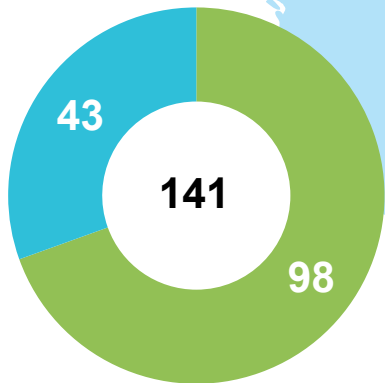


17/6期

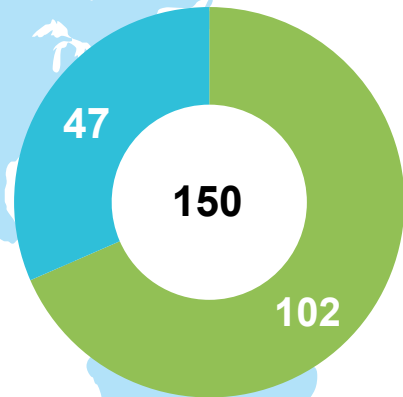
海外事業別売上高



(単位: 億円)



16/6期

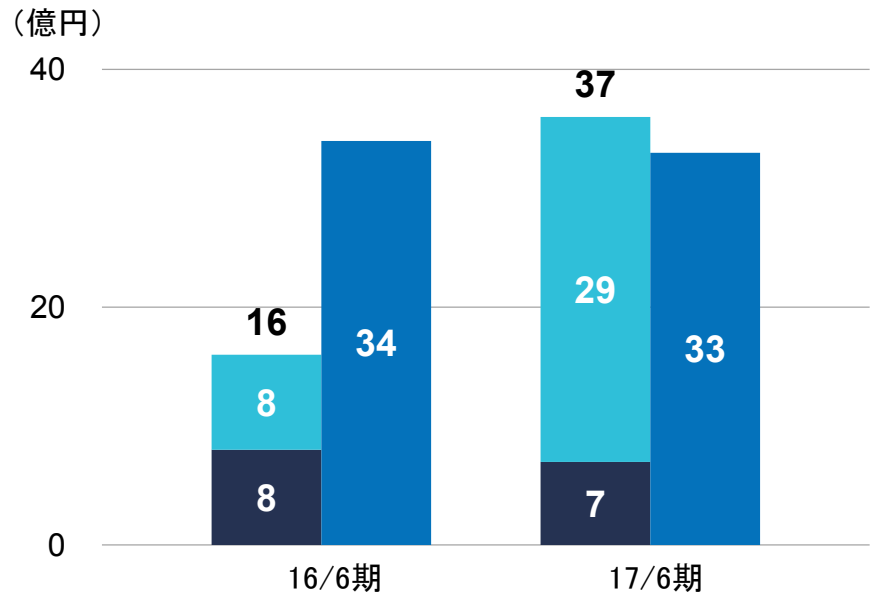


17/6期

- 水処理薬品事業は、欧米で増加したがアジアで減少。
- 水処理装置事業は、韓国を中心に増加。

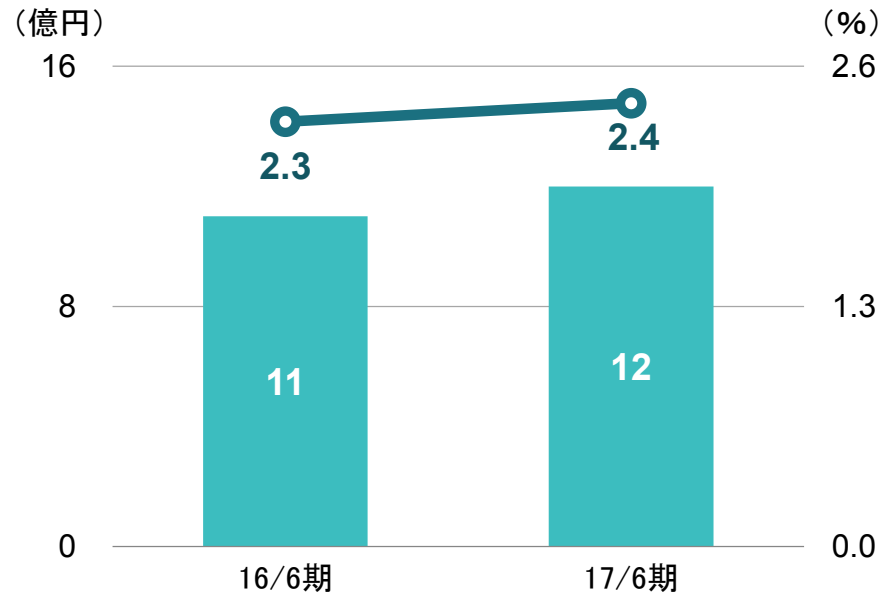
9. 設備投資・減価償却費・研究開発費

設備投資・減価償却費



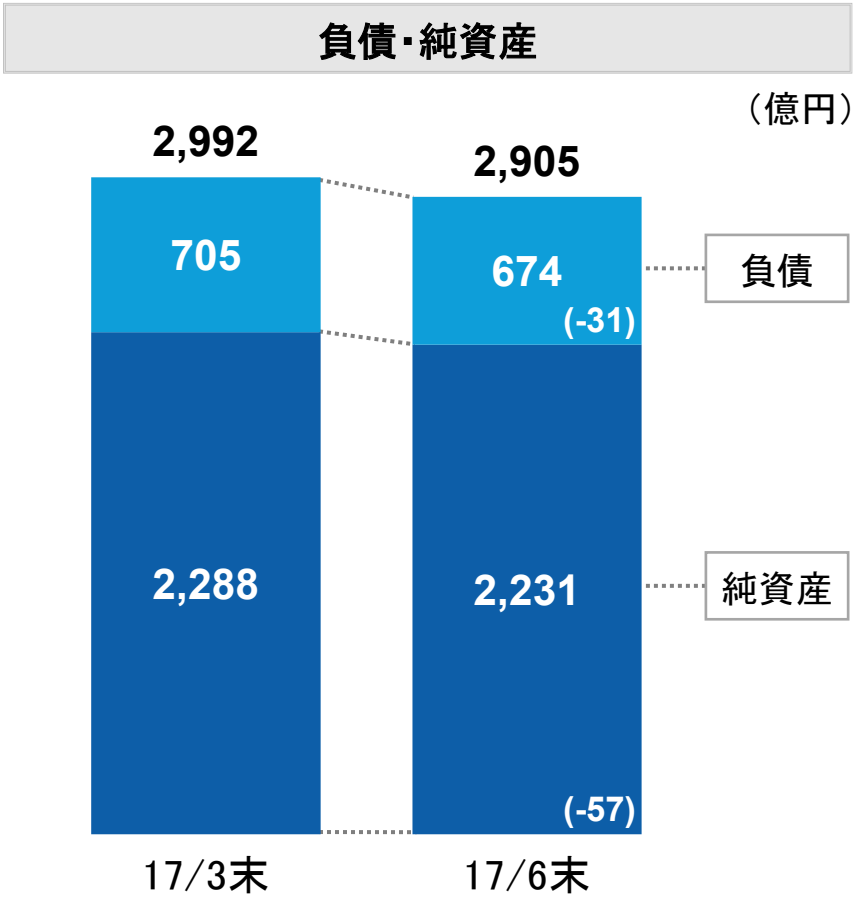
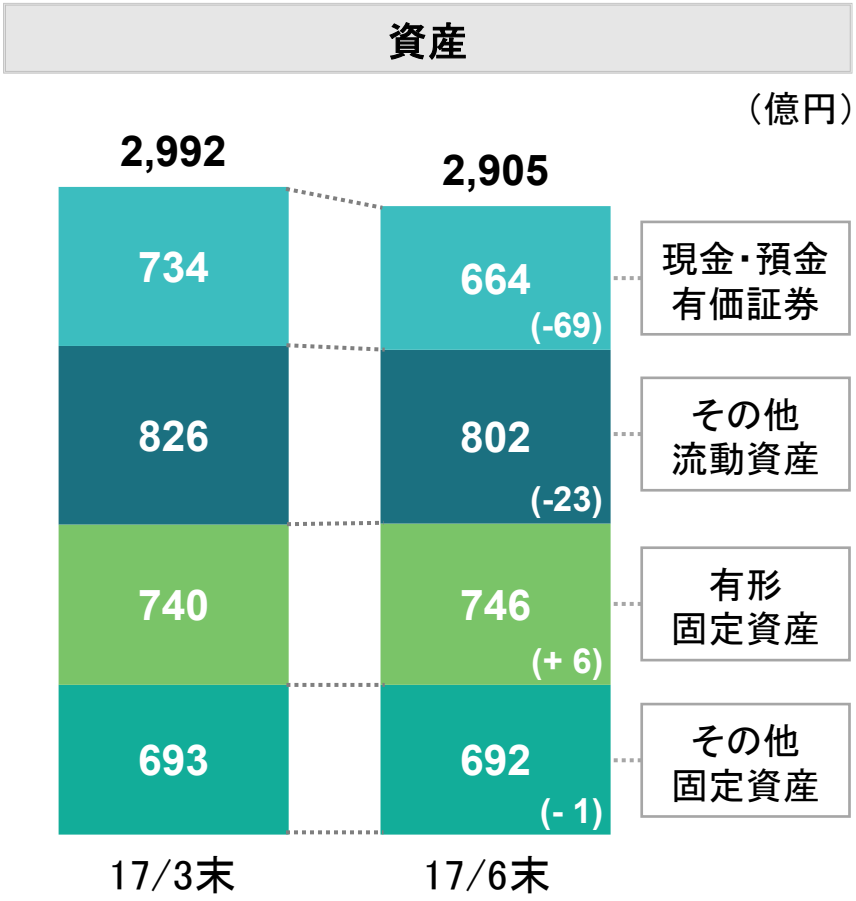
- 超純水供給事業の設備投資は計画に沿った進捗。
- 減価償却費は微減。

研究開発費



- 研究開発費は計画どおり増加。

10. 財政状態



■ 自己株式の取得により現預金と純資産が減少。



- U R L ■ <http://ir.kurita.co.jp/>
- M A I L ■ ir@kurita.co.jp

【 将来見通しに関する注記事項 】

本資料に掲載されている計画数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。